

2023年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年4月14日

上場会社名 and factory株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7035 URL <https://andfactory.co.jp/>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）青木 倫治
 問合せ先責任者（役職名）取締役（氏名）蓮見 朋樹 (TEL) 03-6712-7646
 四半期報告書提出予定日 2023年4月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第2四半期の業績（2022年9月1日～2023年2月28日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第2四半期	1,416	6.4	42	284.4	26	—	24	—
2022年8月期第2四半期	1,332	△10.0	11	—	△95	—	△94	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年8月期第2四半期	2.28		2.28					
2022年8月期第2四半期	△9.61		—					

(注) 2022年8月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第2四半期	5,198	1,065	20.5
2022年8月期	4,855	540	11.1

(参考) 自己資本 2023年8月期第2四半期 1,065百万円 2022年8月期 540百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年8月期	—	0.00			
2023年8月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の業績予想（2022年9月1日～2023年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,140	10.8	100	51.3	68	—	64	—	6.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (4) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (4) 四半期財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年8月期2Q	11,261,970株	2022年8月期	9,853,520株
------------	-------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年8月期2Q	257株	2022年8月期	257株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年8月期2Q	10,717,009株	2022年8月期2Q	9,848,449株
------------	-------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社の主要な事業領域である電子書籍市場については、2020年度の市場規模は4,821億円であり、そのうちコミックが占める割合は83.0%、2021年度の市場規模は5,510億円と前年度から14.3%増加し、そのうちコミックが占める割合も84.6%の4,660億円と増加していることから、近年コミック市場の規模は拡大傾向にあるといえます。

また、2026年度には電子書籍市場は2021年度の約1.5倍の8,048億円に拡大すると予想されていることから、当社としては今後も市場拡大のトレンドは継続していくと見込んでおります。

(インプレス総合研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2022」より)

このような経営環境の中、当社は、「日常に&を届ける」をミッションとして掲げ、中核事業となるAPP事業において、主に大手出版社と共同開発したスマートフォン向けのマンガアプリの収益拡大に注力してまいりました。

APP事業において、主力事業であるマンガアプリ事業では広告市況の悪化に伴い広告ARPU(注1)が低下したため広告収益が減少しましたが、課金率の高いアプリが好調に推移したことや人気作品の牽引によって課金売上が増加いたしました。エンタメ事業では古い事業が好調に推移し、APP事業全体では、売上高、営業利益とも前年同期を上回って着地いたしました。

RET事業においては事業構造改革により&AND HOSTELの運営にかかる損益が大幅に改善したことに加え、入国規制の緩和により外国籍の宿泊者数が増加傾向にあることで、稼働率も徐々に回復しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は1,416,976千円(前年同期比6.4%増)、営業利益42,637千円(前年同期比284.4%増)、経常利益26,057千円(前年同期は経常損失95,606千円)、四半期純利益24,394千円(前年同期は四半期純損失94,622千円)となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

① APP事業

当第2四半期累計期間において、出版社や株式会社アムタスと協業で運営している7つのマンガアプリについて、効率的な広告宣伝費の投下やキャンペーンを積極的に実施したことが奏功し新規ユーザーの獲得が好調に推移しました。さらに、既存ユーザーの継続を促す施策等を実施したことでユーザーが定着し、MAU(注2)は高水準を維持しております。

新型コロナウイルス感染症の影響による広告市況全体の悪化等が影響し、広告ARPU(注1)が下降傾向にあり広告収益が減少いたしました。人気コンテンツの掲載や課金率の高い作品の牽引によって課金売上は増加しました。

この結果、当第2四半期累計期間におけるAPP事業の売上高は1,390,853千円(前年同期比10.5%増)、セグメント利益は246,718千円(前年同期比5.7%増)となりました。

(注) 1. Average Revenue Per Userの略称であり、ユーザー一人当たりの収益単価であります。

2. Monthly Active Userの略称であり、1ヶ月に一度でもアプリを利用したユーザーの数を指します。

当社のAPP事業において運営するスマートフォンアプリのうち、「マンガアプリ」の四半期毎の平均MAU数の推移は下表のとおりであります。

(単位：万人)

年月	平均MAU数	年月	平均MAU数
2017年5月末	31	2020年5月末	906
2017年8月末	65	2020年8月末	994
2017年11月末	108	2020年11月末	1,026
2018年2月末	150	2021年2月末	1,054
2018年5月末	204	2021年5月末	1,056
2018年8月末	238	2021年8月末	1,101
2018年11月末	279	2021年11月末	1,046
2019年2月末	362	2022年2月末	1,044
2019年5月末	430	2022年5月末	1,121
2019年8月末	532	2022年8月末	1,152
2019年11月末	641	2022年11月末	1,129
2020年2月末	720	2023年2月末	1,105

(注) 上記の平均MAU数は、各四半期における平均値を記載しております。

② RET事業

当第2四半期累計期間において、当社が運営する宿泊施設である「&AND HOSTEL」では、入国規制の緩和の影響等もあり、外国籍の宿泊者からの予約が増加し各店舗で稼働率は回復基調となりました。また、一部店舗における契約見直しを実施した結果、当社が収受する売上高及び負担費用が圧縮され前年同期と比較して赤字幅は縮小いたしました。

不動産関連売上及びその他収益は、当第2四半期会計期間中に一部賃貸借契約が終了したことにより不動産賃貸収入が減少したことに加え、前年同期には物件売買仲介手数料がスポットで発生したため、前年同期と比較すると売上高が減少いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間におけるRET事業の売上高は26,123千円（前年同期比61.4%減）、セグメント損失は35,991千円（前年同期はセグメント損失34,290千円）となりました。

③ その他事業

前事業年度までは、他のセグメントに属さない新技術等を用いたエンターテイメント領域の企画検討等を実施していましたが、収益確保が見込めないため当事業年度においては継続しないことと判断いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間におけるその他事業の売上高は0千円（前年同期比100.0%減）、セグメント利益は278千円（前年同期はセグメント損失13,866千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は5,198,126千円となり、前事業年度末に比べ342,728千円増加いたしました。これは主に敷金及び保証金が196,880千円、売掛金が37,568千円減少した一方で、現金及び預金が536,879千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は4,132,737千円となり、前事業年度末に比べ181,665千円減少いた

しました。これは主に長期借入金が86,432千円増加した一方で、解約損失引当金が179,534千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は1,065,389千円となり、前事業年度末に比べ524,394千円増加いたしました。これは主に四半期純利益の計上により利益剰余金が24,394千円、第三者割当増資により資本金が249,999千円、資本剰余金が249,999千円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は20.5%（前事業年度末は11.1%）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度に比べて536,879千円増加し、1,016,011千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、187,747千円となりました。これは主に税引前四半期純利益の計上26,284千円、売上債権の減少額37,568千円、減価償却費の計上28,090千円があった一方で、解約違約金の支払額162,455千円、未収入金の増加額43,526千円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、170,484千円となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出16,216千円があった一方で、敷金及び保証金の回収による収入196,140千円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、554,143千円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出138,568千円があった一方で、長期借入れによる収入225,000千円、株式の発行による収入497,711千円があったこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績予想につきましては、2022年10月14日に公表した通期業績予想から変更はありません。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	479,131	1,016,011
売掛金	524,777	487,208
仕掛品	-	10,210
販売用不動産	3,118,940	3,109,828
立替金	196,779	175,308
その他	37,932	98,745
貸倒引当金	△12,347	△14,359
流動資産合計	4,345,213	4,882,954
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,640	11,640
工具、器具及び備品	64,646	66,436
減価償却累計額	△46,546	△50,708
有形固定資産合計	29,740	27,368
無形固定資産		
ソフトウェア	55,317	70,409
ソフトウェア仮勘定	18,375	7,639
無形固定資産合計	73,692	78,049
投資その他の資産		
投資有価証券	165,607	165,607
敷金及び保証金	237,773	40,893
その他	3,369	3,254
投資その他の資産合計	406,750	209,755
固定資産合計	510,184	315,172
資産合計	4,855,398	5,198,126

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,073	98,309
短期借入金	265,000	235,000
1年内返済予定の長期借入金	277,136	277,136
未払金	514,051	506,364
未払法人税等	13,051	8,184
賞与引当金	304	920
株主優待引当金	36,464	8,193
解約損失引当金	179,534	-
預り金	8,312	6,901
その他	36,723	27,989
流動負債合計	1,430,651	1,168,999
固定負債		
長期借入金	2,877,206	2,963,638
長期預り保証金	6,545	100
固定負債合計	2,883,751	2,963,738
負債合計	4,314,402	4,132,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,819	801,818
資本剰余金	550,460	800,460
利益剰余金	△560,710	△536,316
自己株式	△572	△572
株主資本合計	540,995	1,065,389
純資産合計	540,995	1,065,389
負債純資産合計	4,855,398	5,198,126

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
売上高	1,332,199	1,416,976
売上原価	600,644	598,121
売上総利益	731,554	818,855
販売費及び一般管理費	720,463	776,217
営業利益	11,090	42,637
営業外収益		
受取利息	4	8
補助金収入	893	1,914
その他	238	6
営業外収益合計	1,136	1,929
営業外費用		
支払利息	15,160	15,801
株式交付費	-	2,288
地代家賃	86,581	-
その他	6,091	419
営業外費用合計	107,833	18,510
経常利益又は経常損失(△)	△95,606	26,057
特別利益		
事業譲渡益	0	-
固定資産売却益	-	227
投資有価証券売却益	10,020	-
特別利益合計	10,020	227
特別損失		
減損損失	964	-
固定資産除却損	1,183	-
投資有価証券評価損	4,999	-
特別損失合計	7,146	-
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△92,733	26,284
法人税等	1,889	1,890
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△94,622	24,394

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△92,733	26,284
減価償却費	33,544	28,090
減損損失	964	-
固定資産売却損益 (△は益)	-	△227
固定資産除却損	1,183	-
株式交付費	-	2,288
事業譲渡損益 (△は益)	△0	-
投資有価証券売却損益 (△は益)	△10,020	-
投資有価証券評価損益 (△は益)	4,999	-
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3,075	2,011
賞与引当金の増減額 (△は減少)	-	615
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	△29,888	△28,270
受取利息	△4	△8
補助金収入	△893	△1,914
支払利息	15,160	15,801
地代家賃	86,581	-
売上債権の増減額 (△は増加)	74,342	37,568
未収入金の増減額 (△は増加)	13,886	△43,526
棚卸資産の増減額 (△は増加)	85	△10,210
前払費用の増減額 (△は増加)	779	△19,031
立替金の増減額 (△は増加)	34,335	21,471
仕入債務の増減額 (△は減少)	△16,941	△1,763
未払金の増減額 (△は減少)	9,366	△10,454
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△63,391	△7,929
その他	3,520	△3,369
小計	67,951	7,423
解約違約金の支払額	-	△162,455
利息及び配当金の受取額	4	8
利息の支払額	△13,289	△13,779
補助金の受取額	893	1,914
地代家賃の支払額	△93,642	△17,079
事業構造改革費用の支払額	△8,079	-
法人税等の支払額	△3,779	△3,780
営業活動によるキャッシュ・フロー	△49,941	△187,747

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,743	△3,221
有形固定資産の売却による収入	-	227
無形固定資産の取得による支出	-	△16,216
敷金及び保証金の差入による支出	△165	-
敷金及び保証金の回収による収入	42,570	196,140
投資有価証券の売却による収入	70,020	-
事業譲渡による収入	0	-
その他	△2,441	△6,445
投資活動によるキャッシュ・フロー	106,239	170,484
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△30,000	△30,000
長期借入れによる収入	-	225,000
長期借入金の返済による支出	△138,568	△138,568
株式の発行による収入	-	497,711
ストックオプションの行使による収入	4,197	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△164,370	554,143
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△108,072	536,879
現金及び現金同等物の期首残高	774,726	479,131
現金及び現金同等物の四半期末残高	666,654	1,016,011

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

当社は、2022年11月10日付で、株式会社セブテーニ・ホールディングスから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期累計期間において資本金が249,999千円、資本準備金が249,999千円増加し、当第2四半期会計期間末において資本金が801,818千円、資本剰余金が800,460千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の拡大による経済への影響が継続しており、当社の事業活動にも影響を及ぼしております。広告市況の悪化に伴うマンガアプリの広告収益の縮小及び、当社が運営する「&AND HOSTEL」における稼働率や顧客単価の低下等、足元の業績に影響が生じております。依然として収束時期等を予測することは困難な状況にあり、販売用不動産の評価、固定資産に関する減損損失の計上要否の判断及び繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行うにあたっては、財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき、2023年8月期以降は段階的に縮小するものと仮定し、会計上の見積りを行っております。

なお、現時点での収束時期を正確に見積ることは困難であることから、上記の仮定に変化が生じた場合には将来における財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	APP事業	RET事業	計		
売上高					
マンガ	1,074,807	—	1,074,807	—	1,074,807
占い	159,043	—	159,043	—	159,043
&AND HOSTEL	—	19,546	19,546	—	19,546
不動産関連	—	9,331	9,331	—	9,331
その他	25,241	1,465	26,706	5,491	32,198
顧客との契約から生じる収益	1,259,092	30,343	1,289,435	5,491	1,294,926
その他収益	—	37,272	37,272	—	37,272
外部顧客への売上高	1,259,092	67,615	1,326,707	5,491	1,332,199
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,259,092	67,615	1,326,707	5,491	1,332,199
セグメント利益又は損失(△)	233,413	△34,290	199,122	△13,866	185,255

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新技術等を用いたエンターテインメント領域に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	199,122
「その他」の区分の損失(△)	△13,866
全社費用(注)	△174,164
四半期損益計算書の営業利益	11,090

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	APP事業	RET事業	計		
売上高					
マンガ	1,096,056	—	1,096,056	—	1,096,056
占い	277,419	—	277,419	—	277,419
&AND HOSTEL	—	1,659	1,659	—	1,659
不動産関連	—	600	600	—	600
その他	17,377	688	18,066	—	18,066
顧客との契約から生じる収益	1,390,853	2,948	1,393,801	—	1,393,801
その他収益	—	23,175	23,175	—	23,175
外部顧客への売上高	1,390,853	26,123	1,416,976	—	1,416,976
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,390,853	26,123	1,416,976	—	1,416,976
セグメント利益又は損失(△)	246,718	△35,991	210,726	278	211,004

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新技術等を用いたエンターテインメント領域に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	210,726
「その他」の区分の利益	278
全社費用(注)	△168,366
四半期損益計算書の営業利益	42,637

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。